

演芸プロ級  
たこ焼き美味しか

# 益城町サポート ありがとう

▼うまく焼けるかな 仮設の住民とたこ焼き作り (小池島田団地)

「はるか遠い神戸からボランティアに来てくださり、ありがとうございます」。仮設住宅団地の住民は熊本地震サポート隊に心から感謝していました。明石風のダシ汁のたこ焼きは初めてで「美味しか、珍しか」と大好評でした。

今回の訪問は、「たこ焼きパーティー&お好み演芸会 神戸から」と銘打ち、益城町の仮設住宅団地4か所で、各団地自治会、グループわと今回の活動に種々の援助をいた

だいた神戸市社会福祉協議会の3者が主催者となって実施しました。

熊本サポート隊は11日、益城町役場を訪問、小畑理事長は「仮設団地に元気になってもらおうとやってまいりました」と挨拶、町役場復興課の大山参事は「あ

りがとうございます」と答えました。ホームセンターでは、たこ焼き器10台のほか、包丁などを買入れ。たこ焼きの具材としてスーパーでたこ、たこ焼き用の粉、卵なども仕入れられました。

12日午前には赤井仮設団地(35戸)。笠井浩之自治会長ら40人が参加(うち子どもは15人)。



古後さんのマジックの演技 (赤井仮設団地)

近くの住民にも声をかけていただきました。12日午後には小池島田仮設団地(95戸)。増田敏一自治会長ら70人が参加。13日午前には安永仮設団地(70戸)。橋本芳美自治会長ら40人が参加(うち子ども10人)。13日午後には飯野小仮設団地(48戸)草野圭介自治会長ら60人(うち子ども10人)が参加しました。

活動時間は、各団地2時間半を目途にし、1日目は、挨拶等10分の後、マジック・腹話術30分、たこ焼き1時間20分、民謡・手話ソング30分で行った。2日目は、演芸の前半後半を逆にし、演芸とたこ焼きを同時スタート、演芸を少しでも長く楽しんでいただきました。



活動は、最初に自治会長が挨拶、続いて小畑理事長も挨拶し、市社協職員の細越さんを紹介。その後、小畑理事長が市民福祉振興協会から預かってきた福祉団体の制作物を自治会長に贈呈し、また細越さんが井吹台児童館の皆さんからの寄せ書きを自治会長に手渡しました。このほか、たこ焼きのレシピを入れたくまモンのクリアファイルもプレゼント。

古後さんのマジック、田山さんの腹話術には、子どもも大人もお年寄りも笑い転げ「プロ級の技」と感心。三味線・民謡では、波多野、蔵本さんが歌詞カードをあらかじめ配り熊本地県民謡「おてもやん」や福岡県民謡「九州炭坑節」などを住民が手拍子を打って歌い、節に合わせて踊りの輪も出来ました。手話ソング・体操では阪神大震災復興の歌「しあわせ運べるように」。橋本、井上さんが手本を示し、住民もそれに合わせます。みなさん大いに楽しんだようでした。

たこ焼きは団地の方々も一緒にクルリクルリとひっ

- |   |
|---|
| 熊本サポート隊メンバー   |
| 団長 小畑浩昭理事長 事務局 大槻隆文理事   |
| 演芸チーム ◇波多野武郎さん(食16 民謡・三味線)  |
| ◇古後健一さん(福18 マジック・子ども遊び)◇橋本敏代さん(福19 手話ソング・体操)◇田山映二さん(福22 現役学生 腹話術) |
| たこ焼きチーム ◇根角光宣さん◇井上久美子さん   |
| ◇蔵本公子さん◇夏木久子さん(いずれも食20)   |
| 神戸市社協職員 細越真由美さん=たこ焼きチーム   |

くり返します。熊本ではたこ焼きはソースでしか食べられないようで、だしで食べることにびっくり。たこ焼き器10台は各団地に2~3台ずつ贈呈しました。

益城町では11月14日に最後の仮設住宅の建設が終了、18団地1562戸となっています。

(文 大槻隆文 写真 古後健一・細越真由美)

### ◆◆ 訪問メンバーの感想 ◆◆

◆井上久美子さん たこ焼き(明石焼き)大好評でした。「こげん美味しかたこ焼きは、初めて食べた」「珍しか。食べやすか」と次々嬉しいおほめの言葉を頂きながら、食文20期4人は、仮設の方と交流しながら、たこ焼き(明石焼き)を焼きました。「しんどかったけど楽しかった」の言葉に尽きます。

大人も子供も笑い転げる

◆橋本敏代さん 被災者が思いのほか明るいことに救われました。ハードスケジュールの中、全隊員がフル回転でがんばり、その責任感と集中力は素晴らしいものでした。いろんな出会いを得て、私の人生のポケットがまたひとつ増えた気がします。

### ◆古後健一さん

益城町の皆さんに元気と笑いを届けることができたと自負しています。とくに「たこ焼きパーティー」と「お好み演芸会」の



壊れた家の解体作業は遅れがち

コラボ企画がよかったと思います。両チームとも精鋭がそろい、どこでもたいへん喜んでいただきました。大人も子どもも笑いころげてくれて、印象深い交流となりました。

◆波多野武郎さん 私は「民謡・三味線」担当として参加しました。被災者の方々にも一緒に唄って貰いたくて馴染みの歌を選曲。「おてもやん」と「九州炭坑節」は唄と踊りで大変、盛り上りました。あるおばあさんは笑顔で「久しぶりに大声で唄って楽しかったわ」と言ってくださり安堵。

◆田山映二さん 絶望の淵に苦しまれている仮設住宅団地の方々。その前で私たちは渾身の演芸とたこ焼きを披露しました。みなさんのはじける笑顔に私たちは心を揺さぶられ、涙がこぼれるほどでした。これからの私の人生は「このような方々のために働こう」と固く決心しました。

## 広陵小3年生と環境体験学習

### 里山和楽会14人が先生役

「知らないことをたくさん教えていただき、大変、勉強になった。面白かった」一。環境体験学習授業を受けた児童の感想です。

グループわの里山和楽会(道満俊徳代表)のメンバー14人は10月24日朝、北区の広陵小3年生125人を



対象に授業。広陵小近くの「かがやきの森」に入り、約3時間、散策路を歩き、秋の森の空気をたっぷりと吸いました。

児童には、あらかじめアカマツ、イヌ

ツゲ、コナラなど33種類を表にした用紙を渡しておき、見つけた樹木に○印をつけてもらいます。

森で聞こえた音、声、見つけた花、実、昆虫、鳥、動物なども用紙に記入。アカマツの切株を用意、年輪の長さをメジャーで測り、その数を数え、年輪の形を粗く描いてもらいました。

一番のメインは管理作業。樹木が増えすぎても、葉が茂りすぎても、日当たりが悪くなり、森は弱くなります。適度な伐採や剪定が必要。その手順を説明、実際にやってもらいました。大半の児童が初めての経験でノコギリ、ハサミを手に奮闘。ある女の子は「木さん、ごめん痛いでしょ」と謝っていました。森では児童は生き生きと行動、楽しんでいました。(文・写真 広報 永野知己)

## 水の科学博物館で餅つき大会

グループわが事業を受託している水の科学博物館で餅つき大会が12月18日朝、開かれました。小畑理事長をはじめ〈わ〉の同館スタッフ、食文化コース



出身者など約30人が参加しました。10時30分ごろ、蒸しあがったもち米を石臼に移し、餅つきが始まりました。

「ヨイショ、ヨイショ」、「ぺったんこ、ぺったんこ」一。リズムカルに杵をつきます。子どもの飛び込みもあり、お母さんやお父さんに手を添えてもらって、足を踏みしめながら初めてつきました。この日用意したもち米は50キロ。蒸籠4段、計20籠を蒸しあげ、300人分の餅を近隣の人、〈わ〉関係者の子や孫らに無料で配りました。(文・写真 広報 永野知己)